

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

内容報告書

団体名：NPO多文化共生プロジェクト

1. 事業の概要

事業名称	福岡市及びその近郊で活動する日本語ボランティアのためのカリキュラム案の普及を基軸にしたエンパワーメント事業
事業の目的	平成28年度～平成30年度の3年間に、福岡市及びその近郊にある約50の日本語ボランティア教室とそこで活動する日本語ボランティアに、カリキュラム案に基づいた生活場面中心の教室活動を普及することが目的である。平成28年度の事業において、カリキュラム案に基づいた教室活動の研修に約20の日本語ボランティア教室から約40人の日本語ボランティアが参加し、生活場面中心の教室活動を行う契機をつくることができた。平成29年度は平成28年度の成果を踏まえ、モデルとなる日本語ボランティア教室をつくりながら、カリキュラム案に基づいた教室活動を教室単位で行える支援を行う。今年度は特に福岡県春日市「かすが・にほんごひろば」を対象としてモデル事業を行う。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	福岡市及びその近郊では、在住外国人が年々増加し平成28年9月時点で3万人を超え、その国籍も多様化している。一方、当該地域において活動を行っている約50の日本語ボランティア教室に通う外国人の人数は全体的に減少している。その主たる原因として、各日本語ボランティア教室が行っている文型中心と交流中心の教室活動が、地域社会で生活している外国人が求めるニーズと合っていないことを地方公共団体の福岡市国際部と共有している。
事業内容の概要	(1) 初期指導が必要な外国人のための生活場面に基づいた日本語教室 外国人が最も集住している福岡市東区において日本語教育の専門家によるカリキュラム案を活用した日本語教室を設置した。その全ての教室活動を日本語ボランティアが見学できることで、カリキュラム案に基づいた教室活動への入り口をつくった。 (2) 生活場面中心の日本語ボランティア教室を行うための実践研修 カリキュラム案を活用した日本語ボランティア教室への再編を支援する研修を行った。まず一つの日本語ボランティア教室でモデル事例(「かすが・にほんごひろば」)をつくった。次にその成果と(1)の成果を福岡市及びその近郊の日本語ボランティア教室(福岡県糸島市「日本語ひろば・いとしま」等)へ伝える研修を行った。 (3) 教室での学びを日常の行為に移すための自律学習用教材の作成 (1)の実践を通して、日本語学習者が教室活動と実際の生活場面をつなげ、自律的な学びが行える教材を作成した。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月(11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	松永典子	九州大学地球社会統合科学府
2	野口照代	福岡国際関係団体連絡会
3	青木ふみか	えふえいち日本語教室
4	古川美穂子	かすが・にほんごひろば
5	中村昭	福岡日本語講師教育研究会
6	妹川幸代	NPO多文化共生プロジェクト
7	深江新太郎	NPO多文化共生プロジェクト



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年6月26日 (月) 15:00～17:00	2時間	愛和外語学院	松永典子、野口照代、古川美穂子、中村昭、妹川幸代、深江新太郎	1. 事業計画の説明・確認 2. 事業評価のためのアンケート内容の検討
2	平成29年11月22日(水) 10:00～12:00	2時間	愛和外語学院	野口照代、古川美穂子、中村昭、青木ふみか、妹川幸代、深江新太郎	1. 教室設置の中間報告・改善点の検討 2. 人材育成(かすが・にほんごひろば)の中間報告
3	平成30年1月31日 (水) 10:00～12:00	2時間	愛和外語学院	松永典子、野口照代、古川美穂子、青木ふみか、妹川幸代、深江新太郎	1. 人材育成(かすが・にほんごひろば)の結果報告・評価 2. 人材育成(福岡市)の中間報告
4	平成30年3月13日 (火) 10:00～12:00	2時間	愛和外語学院	野口照代、古川美穂子、青木ふみか、妹川幸代、深江新太郎	1. 教室設置・人材育成のアンケート結果報告・評価 2. 作成教材の説明・検討

(2) 事業の実施体制

(1) 運営委員会

地域日本語教育コーディネーター2名と福岡市において長年日本語ボランティアに従事した福岡国際関係団体連絡会の代表、福岡日本語講師教育研究会の代表を中心に構成された。中核メンバーの深江が議長を行った。

(2) 日本語教育の実施

日本語教育の専門機関であり地域日本語教育の実績を持つ愛和外語学院と連携しカリキュラム案を活用した教室活動を実施した。中核メンバーの妹川が中心であった。

(3) 日本語教育を行う人材の養成・研修

地域日本語教育コーディネーターが代表を務める「かすが・にほんごひろば」と連携しカリキュラム案を活用した日本語ボランティア教室への再編を支援した。中核メンバーの深江が研修の中心であった。

(4) 日本語教育のための学習教材の作成

日本語教育の実施における愛和外語学院との連携を軸にした教室活動を通して、日本語学習者の自律学習を支援する教材作成を行った。中核メンバーの妹川、清水、深江が中心となり作成した。

(3) 地域における連携体制

文化庁主催の地域日本語教育コーディネーター研修を受講した日本語ボランティア教室の代表2名が運営委員として参画することで、カリキュラム案の普及という事業目的の協力を得ることができた。内1名は、日本語教育を行う人材の養成・研修において、カリキュラム案を活用した日本語ボランティア教室への再編で連携を行った。また福岡市における地域日本語教育について、運営委員として参画する九州大学の日本語教育の専門家と連携し、包括的な体制整備について議論を行った。日本語教育の実施では、地域日本語教育の実績を持つ愛和外語学院と連携し日本語教室を開講することで、カリキュラム案を活用した効果的な教室活動と教材作成を行うことができた。また福岡市の多文化共生施策を受け持つ福岡市国際部とは継続的に情報交換を行い、本事業の趣旨について理解を得ているため周知において協力を得た。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:初期指導が必要が外国人のための生活場面を基にした日本語教室】										
目的・目標	福岡市において最も外国人が集住している福岡市東区においてカリキュラム案を基にした日本語教室を設置することで初期指導が必要な外国人の日本語学習支援を行うと同時に、その全ての教室活動を日本語ボランティアに公開することで日本語ボランティアのカリキュラム案理解への入り口をつくる。									
対象	福岡市東区及びその近郊で生活する外国人									
取組の内容	カリキュラム案に基づいた生活場面中心の教室を7か月間継続して開講した。周知においては小学校を通して外国人児童の保護者へ伝達を行った。また福岡市東区区役所の協力も得て周知を行った。共に初期指導が必要な外国人の参加を促すためであった。また約50の日本語ボランティア教室へ教室活動を公開する案内を配布した。									
実施期間	平成29年7月5日～平成30年1月31日					曜日・時間帯	水曜日(18:30～20:30)			
開催回数	全60時間(1回2時間 × 30回)					開催場所	愛和外語学院			
参加者	総数 24 人 (日本語学習者 19 人、指導者5 人)					使用した教材・リソース	自作教材			
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
	4			3	1		8			
	フランス(1人)、エジプト(2人)									
カリキュラム案活用	参加した外国人の生活状況に合わせて生活上の行為の事例を選び教室活動の話題と場面を考えるために「カリキュラム案について」pp.12-13を参照した。									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名	
1	平成29年7月5日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	11	オリエンテーション	4グループに分かれ様々なテーマで話をする中で、現在の日本語能力を把握する		妹川清水田上李小栗	なし	
2	平成29年7月12日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	12	自己紹介	TPOに合わせた挨拶を行う新しい友達を作る時の自己紹介		妹川清水李	なし	
3	平成29年7月19日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	9	病院 日用品を買う レストラン	健康チェック、症状を伝える、病院の会話、1週間の買い物、買い物で困ったこと 食べたいもの、食べられない物		妹川清水李	なし	
4	平成29年7月26日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	12	区役所 スイーツを買う イベントに参加する	区役所アンケート、区役所での会話 デザートアンケート、試食のやりとり イベントアンケート、チラシを基にやりとり		妹川清水李	なし	
5	平成29年8月2日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	9	レストラン 好きなことに誘う 食材を買う	行ったことがあるお店、おすすめの店 趣味、〇〇に誘う会話 チラシを用いて2000円で買い物する		妹川清水田上	なし	
6	平成29年8月9日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	8	レストラン 区役所 洋服を買う	レストランの一連の場面の会話 引っ越しの手続きに行った時の会話 試着して、サイズ交換、色の交換の会話		妹川清水田上	なし	
7	平成29年8月16日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	11	料理 区役所 病院	自分が作った料理のレシピ説明 区役所で困ったこと 健康チェック、診察室でのやりとり		妹川清水田上	なし	
8	平成29年8月23日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	10	スーパーでの買い物 不動産屋 病院	スーパーで日頃買うもの、レジの会話 住んでいる部屋、住みたい部屋 症状の表現、家庭でできる対処法		妹川清水田上	なし	
9	平成29年8月30日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	9	洋服を買う 不動産屋 料理	今着ている服、買いたい服 部屋を選ぶときのポイント 料理の作り方を尋ねる、レシピを伝える		妹川清水田上	なし	
10	平成29年9月6日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	12	今の私、将来の私の1日 平日・休日	仕事を中心に将来の自分を語る 誰と何を話しているか 1日のスケジュール		妹川清水小栗	なし	
11	平成29年9月13日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	9	趣味 旅行 私の夫	休日の過ごし方、好きなことに誘う 旅行した所、旅行したい所 自分の夫を紹介する		妹川清水小栗	なし	
12	平成29年9月20日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	10	贈り物 食べること ご近所	嬉しかったプレゼント、今あげたい人 食習慣の変化、忘れられない味 近所で誰とどんなことを話すか		妹川清水小栗	なし	
13	平成29年9月27日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	12	お出かけ 健康 交通	日本で出かけた所、一番良かった所 自分の国の健康法 日頃使う交通機関		妹川清水小栗	なし	
14	平成29年10月4日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	11	歳時記 料理 交通	日本の年中行事、国の年中行事 冷蔵庫の中にあるもので何を作るか 目的地までどうやって行くか		妹川清水李	なし	
15	平成29年10月11日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	12	気持ち 料理 道案内	どきどき、わくわく、はらはらする時 どんな味が好きか、国の料理の紹介 駅から家までの道案内		妹川清水李	なし	
16	平成29年10月18日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	10	やってみたいこと 気づいたこと 住まい	今までやってないけどやりたいこと 日本でみつけたびっくりしたこと 自分の住まいの満足度		妹川清水李	なし	
17	平成29年10月25日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	9	メッセージを伝える トラブル解決 ゴミの分別	日本語でのメッセージの伝え方 日本に来てからのトラブル オロナミンCは燃えるゴミ? 燃えないゴミ?		妹川清水李	なし	
18	平成29年11月1日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	11	冬 健康 歳時記	冬といえば、冬になる前に欲しいもの 自分なりの健康法 1月から12月の年中行事		妹川清水田上	なし	
19	平成29年11月8日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	9	休みの日 病院 季節	平日と休日の過ごし方 勤務先や学校に休みの連絡を行う それぞれの季節で体験したいこと		妹川清水田上	なし	
20	平成29年11月15日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	8	余暇を楽しむ パーティーに参加 郵便局	おみやげ屋さんでの会話 パーティーで話す会話 不在連絡票		妹川清水田上	なし	
21	平成29年11月22日(水) 18:30～20:30	2	愛和外語学院	12	公共交通機関 レストラン予約 私の1日	タクシーに乗る時の会話 行きたいレストランを探し電話をする 理想の1週間を考える		妹川清水田上	なし	

22	平成29年11月29日(水) 18:30~20:30	2	愛和外語学院	9	緊急 洋服を買う 私の1日	緊急システムの国と日本の違い お店でサイズ交換、色交換 毎日すること、ときどきすること	妹川 清水 田上	なし
23	平成29年12月6日(水) 18:30~20:30	2	愛和外語学院	11	大切な人の紹介 郵便局 旅行	今まで出会った人の紹介 不在連絡票 今まで行った旅行で良かった所	妹川 清水 小栗	なし
24	平成29年12月13日(水) 18:30~20:30	2	愛和外語学院	10	防災 郵便局 私のこれまでこれか ら	災害が来た時に困ったこと メールと手紙もらって嬉しいのは？ 人生のターニングポイント	妹川 清水 小栗	なし
25	平成29年12月20日(水) 18:30~20:30	2	愛和外語学院	8	日本人の家 コンビニ 好きなこと	日本人の家に行った時に起きるやりと り コンビニのサービスを利用する 自分の好きなことを紹介	妹川 清水 小栗	なし
26	平成29年12月27日(水) 18:30~20:30	2	愛和外語学院	7	コンビニ お正月 不動産屋	コンビニのサービスを利用する 年末年始の過ごし方の違い 住みたい部屋の希望を伝える	妹川 清水 李	なし
27	平成30年1月10日(水) 18:30~20:30	2	愛和外語学院	9	込み入った場面の挨拶 気持ち 区役所	お見舞いに行ったときにかけることば 今までもらったプレゼントで嬉しかった もの 区役所をいつ利用するか	妹川 清水 李	なし
28	平成30年1月17日(水) 18:30~20:30	2	愛和外語学院	11	引っ越し後の近所 歳時記 パーティーに参加	分からないことを組長に尋ねる 国の年中行事と日本の年中行事 ウェルカムパーティーでのやりとり	妹川 清水 李	なし
29	平成30年1月24日(水) 18:30~20:30	2	愛和外語学院	12	料理 お出かけ レストラン	たこやきの作り方を尋ねる 日本で楽しかった所、目的地までの 行き方 レストランでの注文の仕方	妹川 清水 李	なし
30	平成30年1月31日(水) 18:30~20:30	2	愛和外語学院	12	修了式	修了証を授与 一人ずつスピーチ 受講者、指導者で交流	妹川 清水 田上 小栗 李	なし

(1) 特徴的な活動風景(2回分)

○取組事例①

【第4回 平成29年7月26日】

区役所を話題にした教室活動である。一人の学習者が出産を控えていたため、出産に際し、区役所を利用することから、区役所が教室活動の話題となった。まず区役所を利用したことがあるかどうか、区役所を利用する際、困ったことがあるかどうかなどを尋ねた。続いて区役所の利用は、一人ひとりのライフステージに応じて起きるので、日本に来てから今までどんなことがあったかを尋ねた。教室活動を行うに際し、一人ひとりが自分なりに自分のことを表現することが大切にされ、それを実現する教材が使用された。続けて出産に関わる一連の流れを確認した。日本で生活し始めた外国人にとり、分からないことを区役所でどう話すかだけでなく、日本における出産から育児に関するシステムであるため、それを説明するものである。最後に自宅学習用教材として、これから先のライフデザインを行う教材が渡された。



○取組事例②

【第6回 平成29年8月2日】

スーパーで食材を買うことを話題にした教室活動である。まず参加した学習者がどこで買い物するかを尋ねた。教材には近隣にあるスーパーやショッピングモールなどが写真で貼られている。イスラム教徒の参加者がいたため、ハラール食品のお店もある。次に一人ひとりが今、何を買いたいかを尋ねた。その後でスーパーのチラシを基に、作る料理を決め、2000円で何をかうかという活動が行われた。学習者は自分の作りたいものに合わせて食材を選んでいく。その中でシーチキンを鶏肉と間違っていたことが分かるなどのやりとりが行われた。お金の数え方も実際に食材を買う活動の中で学ばれていた。自宅学習用の教材は自分の買った食材の中からおすすめのを3つ選んで紹介するというものである。学習者は自分が買った食品の写真を撮って来ていたため、その写真と学習者がコメントを基にやりとりが行われた。



(2) 目標の達成状況・成果

12名の学習者からアンケートの回答を得た。(1)本講座の内容に満足しているか:①満足している12名、(2)本講座を受けて、前より日本の生活でできることが増えたか:①できることが増えたと思う6名、②少しできることが増えたと思う6名、(3)本講座を受けて、前より日本語で自分のことが話せるようになりましたか:①話せるようになったと思う5名、②少し話せるようになったと思う7名、(4)本講座を受けて、日本語学習への興味は大きくなりましたか:大きく変わった12名。またアンケートにおける自由記述では「一人で買い物ができる。日本人の言っていることが理解できないという理由で恥ずかしがったりこわがったりせず日本人と話すことができる。このコースは私の日本語に多くの自信を与えてくれた。」などのコメントがあった。アンケートの詳細は本報告書の末尾に添付する。以上の結果から考えて本講座で行った生活場面に基づいた教室活動は参加した外国人にとり日本での生活を行いやすくなること助力となりエンパワメントにつながるものであったと考えられる。本講座で力点を置いた一人ひとりの学習者が自分なりに思いや考えを表現でき、日常生活でこれまで行っていたことのない新たな生活上の行為を行うことは一定の成果があったと言える。

(3) 今後の改善点について

まず周知先をより広げることが必要である。平成30年度は平成29年度の小学校から保護者への伝達に加え、企業と連携し、アルバイトを行っている外国人に日本語学習が必要な人がいれば教室の案内を行ってもらう。次に設置期間を短くすることが必要である。平成29年度は週1回、7か月で行ったが途中、間延びすることがあり、学習者が少ない期間があった。平成30年度は週2回、3か月とすることで集中して日本語学習が行えるようにする。最後に学習内容である。生活場面に基づいた教室活動にどのように学習項目として言語形式を組み込むかが課題である。平成29年度のアンケートの自由記述において、言語知識を問うテストなどがあれば良い、というコメントがあった。平成30年度は生活場面に基づいた教室活動から言語形式をどのように学ぶのかに取り組む。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:生活場面中心の日本語ボランティア教室を行うための実践研修】									
目的・目標	福岡市及びその近郊で活動を行う日本語ボランティアに、カリキュラム案に基づいた生活場面中心の教室活動について具体的な実践事例を基にした研修を行うことで、当該地域における日本語ボランティアへのカリキュラム案理解の普及と生活場面を中心とした教室活動の教室単位での実施につなげる。								
対象	福岡市及びその近郊で活動を行う日本語ボランティア講師								
取組の内容	カリキュラム案に基づいた教室活動を教室単位で行うために①モデル形成 ②全体周知という構成をとった。①は地域日本語教育コーディネーターが代表を務める「かすが・にほんごひろば」であった。②は「かすが・にほんごひろば」の教室単位での取り組みを周知する実践研修を福岡市で行った。								
実施期間	平成29年6月24日～平成30年3月17日					曜日・時間帯		①火、土曜日(10:00～12:00) ②土曜日(13:00～16:00)	
開催回数	全38時間 (①1回2時間×10回、②1回3時間×6回)					開催場所		①クローバープラザ(春日市) ②博多バスターミナル(福岡市)	
参加者	総数 41 人 (受講者 37 人、講師・補助者 4 人)							使用した教材・リソース 自作教材	
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	1								
	日本(40人)								
カリキュラム案活用	「指導力評価について」pp.22-39のPDCAサイクルを活用した。カリキュラム案を活用した日本語ボランティア活動を行うためには、その日本語ボランティア教室が社会課題の解決をめざしたものでなければならない。その際、PDCAサイクルの活用は具体的な手立てとなるからである。								
養成・研修の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師名	補助者名
1	平成29年6月24日 (土) 10:00～12:00	2	クローバープラザ	13	モデル授業 (かすが・にほんごひろば)	外国人2名を相手にモデル授業を行った モデル授業をかすがのスタッフが見た後にスタッフ間で意見交換を行った		深江	妹川
2	平成29年6月26日 (火) 10:00～12:00	2	クローバープラザ	12	授業作成① (かすが・にほんごひろば)	4グループに分かれて教室活動のテーマを決めた。A病気の症状、B病院へ行く、C日用品を買う、Dレストランへ行く		深江	なし
3	平成29年7月22日 (土) 10:00～12:00	2	クローバープラザ	11	授業作成② (かすが・にほんごひろば)	4グループに分かれて教室活動を作った。それぞれのグループで使用教材を決め、教室活動の流れを考えた		深江	妹川
4	平成29年7月25日 (火) 10:00～12:00	2	クローバープラザ	10	授業作成③ (かすが・にほんごひろば)	4グループに分かれて教室活動を作った。各グループの役割分担を行い、模擬授業を行った		深江	なし
5	平成29年8月22日(火) 10:00～12:00	2	クローバープラザ	11	授業作成④ (かすが・にほんごひろば)	10月12日のテーマについて話し合った。Aグループが旅行、Bグループが病院、Cグループが好きなこと、Dグループが洋服		深江	なし
6	平成29年8月26日 (土) 10:00～12:00	2	クローバープラザ	10	授業作成⑤ (かすが・にほんごひろば)	8月24日の実践を4グループに分かれ振り返りを行った。振り返りを基に次の教室活動のテーマを決めた		深江	妹川
7	平成29年9月23日 (土) 10:00～12:00	2	クローバープラザ	12	授業作成⑥ (かすが・にほんごひろば)	10月12日の実践に向け4グループで教室活動の流れを考えた。学習者一人ひとりが自分のことを表現できる問いかけを作った		深江	妹川
8	平成29年9月26日 (火) 10:00～12:00	2	クローバープラザ	12	授業作成⑦ (かすが・にほんごひろば)	10月12日の実践に向けて4グループで教室活動の細部を詰めた。会話場面の提示の仕方、模擬授業を行った		深江	なし
9	平成29年10月14日(土) 13:00～16:00	3	博多バスターミナル	24	生活場面に基づいた 教室活動への理解 (福岡市)	「かすが・にほんごひろば」が生活場面に基いた教室活動を行った背景、生活場面に基いた教室活動の目的を共有した		深江	妹川 清水
10	平成29年11月11日(土) 13:00～16:00	3	博多バスターミナル	18	授業作成① (福岡市)	「買い物(食料品)」「買い物(洋服)」「健康(病院)」という3つの日常の話題から1つを選び、グループで教室活動を作った		深江	妹川 清水
11	平成29年12月9日(土) 13:00～16:00	3	博多バスターミナル	20	授業作成② (福岡市)	「歳時記」「交通」「区役所(出産手続き)」という3つの日常の話題から1つを選び、グループで教室活動を作った		深江	妹川 清水
12	平成29年12月19日(火) 10:00～12:00	2	クローバープラザ	11	授業作成⑧ (かすが・にほんごひろば)	4グループで教室活動を作成。A歳時記、B近所づきあい、C誘う、D交通で使用教材を決め、会話場面までの流れを作った		深江	なし
13	平成30年1月13日 (土) 13:00～16:00	3	博多バスターミナル	20	授業作成③ (福岡市)	「郵便局」「余暇を楽しむ」「私のふるさと」という3つの日常の話題から1つを選び、グループで教室活動を作った		深江	妹川 清水
14	平成30年2月10日 (土) 13:00～16:00	3	博多バスターミナル	16	授業作成④ (福岡市)	「旅行」「救急」「料理」という3つの日常の話題から1つを選び、グループで教室活動を作った		深江	妹川 清水
15	平成30年2月27日 (火) 10:00～12:00	2	クローバープラザ	11	授業作成⑨ (かすが・にほんごひろば)	4グループで教室活動を作成。A住まい、B先生との会話、Cふるさと、D病気で使用教材を決め、会話場面までの流れを作った		深江	なし
16	平成30年3月17日 (土) 13:00～16:00	3	博多バスターミナル	17	全体振り返り (福岡市)	在住外国人支援の問題とその解決策をどうすればよいかという観点から、一人ひとりにできることを考えた		森重	妹川 清水

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 平成29年6月26日】

「かすが・にほんごひろば」における研修である。第1回の研修で「かすが・にほんごひろば」のスタッフはモデル授業を実際に見た。第2回の研修では4グループに分かれ、各グループで教室活動を行う日常の話題を決めることを行った。「かすが・にほんごひろば」は通常、文型シラバスの教科書を使用している人が多いため、「その学習者どのような生活をして、日常生活でどのようなことができたらいのか」を考えることが初めてであった。まず約20名の学習者をレベルや属性に従い4グループに分ける。その後、各グループに中心となるスタッフがグループリーダーとして配置され、他のスタッフが配置される。話し合いはそのリーダーを中心に行われる。話し合いの手順は①話題決め ②教材決め ③教室活動の流れである。4グループの話題は、A病院へ行く、B病気の症状、C日用品を買う、Dレストランへ行くである。



○取組事例②

【第13回 平成30年1月13日】

福岡市における研修である。参加者はまず「郵便局」「余暇を楽しむ」「私のふるさと」の3つから教室活動を考えたい1つを受け付け時に選ぶ。ワークショップの中では最も希望が多かった1つの話題で全員が教室活動を考える。グループはおおよそ4人1組である。教室活動を考えるにあたり、本事業で作成した教材を配布する。参加者はその教材を参照しながら自分達の教室活動を考える。途中つまずいたら補助者に助言を求める。参加者の多くは文型シラバスから教室活動考えたことしかないので、場面・話題から教室活動を考える時にその教材と補助者が手助けとなる。最後に作成した教案を基に、その一部分を模擬授業として行った。学習者役は補助者である。参加者の中から代表のグループが1組模擬授業を行った。模擬授業を行いたいというリクエストは参加者から出たものである。



(2) 目標の達成状況・成果

28名の参加者からアンケートの回答を得た。(1)本ワークショップに参加して、地域で生活する外国人に対する日本語教育への理解は深まりましたか。①～④からお選びください:①深まったと思う20名、②まあまあ深まったと思う4名、③深まらなかった:0名、④分からない:1名。(2)本ワークショップに参加して新たな気づきや、特に興味を持ったことがありますか:「質問の言葉の選び方が非常に難しい。学習者が自ら言いたいことをどんなヒントを与えて言ってもらえなどとても勉強になりました」「学習者の方とボランティアは対等の関係であるということ。学習者の人が何を必要としているか常に考えて学習者が自分の言いたいことが表現できるようにと思っています」など。以上より本ワークショップは日本語ボランティアの方に対するエンパワーメントになっていると考えられる。アンケート結果の詳細は本報告書の末尾に添付する。

(3) 今後の改善点について

平成30年度の研修内容は、「文型シラバスの教科書を場面・話題の教室活動としてできないか」で行う。福岡市の日本語ボランティア教室は文型シラバスの教科書を使用している。平成28、29年度はその現状に対し、「新たな教室活動の提案」を行った。しかし「新たな教室活動の提案」が日本語ボランティアの現状からかけ離れていることで、「いいなと思っても実際の行動につながらない」ことが起きた。したがって平成30年度は日本語ボランティアの現状に即し、今行っている教室活動をちょっと工夫すればもっと楽しく役に立つ教室活動になることをテーマにワークショップを行う。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称:生活場面で一歩踏み出すためのチャレンジシート】			
目的・目標	生活場面中心の教室活動に参加した日本語学習者が、日常の行為と教室での学びをつなげ自律学習を確立できるような教材作成を行う。		
対象	福岡市及びその近郊で活動する日本語ボランティア		
教材の内容	23の話題で構成した。23の話題は、1自己紹介、2買い物(食品)、3買い物(洋服)、4料理、5健康、6レストラン、7区役所、8日常の挨拶、9歳時記、10ごみ、11旅行、12おしゃべり①、13おしゃべり②、14郵便局、15近所、16コンビニ、17救急、18贈り物、19趣味、20交通、21防災、22日本人の家、23道案内である。それぞれの話題において、学習者がそこに示されたチャレンジを行うことで生活場面において新たな一歩が踏み出せる工夫を行った。		
実施期間	平成29年7月5日～平成30年1月31日	成果物のリンク先	http://www.nihongo-ews.jp/
作成教材の想定 授業時間 コマ数と頁数	1回 2.5 時間 × 23 回 = 57.5 時間分	教材の頁数	51 ページ
カリキュラム案活用	外国人一人ひとりを生活者として捉えその日本語学習が自律的に行われるためには、日常生活を基礎にした日本語学習の計画が立てられる必要がある。そのために「日本語能力評価について」pp.52-80の日本語学習ポートフォリオを活用した。		
教材の活用方法	生活場面に基づいた教室活動の後、本教材を自宅に持ち帰り、学習者一人ひとりの状況に合わせて実践を行う。行った実践を次の教室活動に持って来てそのことについて話し合う。学習者の新たな行動につながることで交流の話題を提供する教材である。		
今後の活用の予定	まず「かすが・にほんごひろば」で活用する。「かすが・にほんごひろば」は平成30年度、春日市の支援を受けて研修を継続することが決まっている。次に平成30年度の本事業の実践研修で、文型シラバスの教科書と併用する方法を提案する。		



チャレンジシート「家の町」

1. 福岡は あなたの町と おなじですか。何が ちがいますか。

2. 日本人と「家の町」の 家々を教えてください。

チャレンジシート「買い物」

いま どんぐり いくつ と くら いくつ が あります。おいて ください。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

平成28年度～平成30年度の3年間に、福岡市及びその近郊にある約50の日本語ボランティア教室とそこで活動する日本語ボランティアに、カリキュラム案に基づいた生活場面中心の教室活動を普及することが目的である。平成28年度の事業において、カリキュラム案に基づいた教室活動の研修に約20の日本語ボランティア教室から約40人の日本語ボランティアが参加し、生活場面中心の教室活動を行う契機をつくることができた。平成29年度は平成28年度の成果を踏まえ、モデルとなる日本語ボランティア教室をつくりながら、カリキュラム案に基づいた教室活動を教室単位で行える支援を行う。今年度は特に福岡県春日市「かすが・にほんごひろば」を対象としてモデル事業を行う。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

I アンケート結果
・教室設置：回答者12名
(1)本講座の内容に満足しているか：①満足している12名、(2)本講座を受けて、前より日本の生活でできることが増えましたか：①できることが増えたと思う6名、②少しできることが増えたと思う6名、(3)本講座を受けて、前よりも日本語で自分のことが話せるようになりましたか：①話せるようになったと思う5名、②少し話せるようになったと思う7名、(4)本講座を受けて、日本語学習への興味は大きくなりましたか：大きくなった12名
・人材育成：回答者28名
(1)本ワークショップに参加して、地域で生活する外国人に対する日本語教育への理解は深まりましたか。①～④からお選びください：①深まったと思う20名、②まあまあ深まったと思う4名、③深まらなかった：0名、④分からない：1名。
II 生活場面に基づいた教室活動の導入
「かすが・にほんごひろば」の生活場面に基づいた教室活動の導入を受け、「日本語ひろば・いとしま」が平成30年度に生活場面に基づいた教室活動を導入することを決めた。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

カリキュラム案に書かれている「生活上の行為」は、日本で生活する外国人がどのような接触場面を持つか把握するのに有効である。生活場面にそくした教室活動を考えるに際し、カリキュラム案が明記した「生活上の行為」は有効に活用される。一方で具体的な教室活動の流れを考える時に、カリキュラム案は活用されにくい。例えば教材例集を用いてすぐに教室活動を行うことは難しい。したがってカリキュラム案が地域で活用されるためには、カリキュラム案の理念を理解し、「生活上の行為」を基にどのように教室活動を行うかを積み重ね、より使いやすい教材を作成する必要がある。日本語ボランティアは準備にける時間と労力が限られているためより使いやすい教材として提示することが必要不可欠である。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

・本事業の地域日本語教育コーディネーターが代表を務める「かすが・にほんごひろば」との連携により行った人材育成は、その成果報告の結果、糸島市の「日本語ひろば・いとしま」が平成30年度に教室単位で生活場面に基づいた教室活動を導入することを決めた。
・九州大学との連携により福岡市教育委員会とのつながりが生まれ、福岡市東区内の外国人児童が多い小学校に教室設置の案内が配布できた。
・福岡マスジとの連携により福岡市で生活するイスラム教徒へ教室設置の案内が配布できた。
・愛和外語学院との連携により、カリキュラム案を活用した先駆的な教室活動が実施できた。

(5) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

本事業を通して周知において次の機関と連携を行った。福岡市東区役所、福岡市東区の小学校、九州大学、福岡県国際交流センター、福岡よかトピア国際交流財団、北九州国際交流センター、福岡マスジ。これらの広域の連携により周知が広く行えた。その成果として例えば人材育成においては福岡市近郊だけでなく、遠方地域である北九州市、行橋市からの参加があった。今後は、平成30年度の事業を通して、地域への発信を継続する。

(6) 今後の課題について

・「日本語ひろば・いとしま」における生活場面に基づいた教室活動の導入
・福岡市における横断的な日本語ボランティアネットワークの創出
・多様な日本語使用場面に対応したイラスト教材の作成

(7) その他参考資料

人材育成、教室設置アンケート結果

平成 29 年度文化庁委託事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

教室設置アンケート結果

回収数 12 名

1. アンケートの対象者

①回答者総数：12 名 ②国籍：エジプト 2 名、中国 2 名、インドネシア 6 名、フランス 1 名、ベトナム 1 名 ③性別：女性 8 名、男性 4 名

2. 回答結果

選択式のアンケートです。本講座を受講しての感想を（1）～（4）の①～④から選んで回答してください。

（1）本講座の内容に満足していますか。

①満足している 12 名

②少し満足している 0 名

③あまり満足していない 0 名

④満足してない 0 名

（2）本講座を受けて、前よりも日本の生活でできることが増えましたか。

①できることが増えたと思う 6 名

②少しできることが増えたと思う 6 名

③あまり変わらない 0 名

④変わらない 0 名

（3）本講座を受けて、前よりも日本語で自分のことが話せるようになりましたか。

①話せるようになったと思う 5 名

②少し話せるようになったと思う 7 名

③あまり変わらない 0 名

④変わらない 0 名

（4）本講座を受けて、日本語学習への興味は大きくなりましたか。

①大きくなった 12 名

②少し大きくなった 0 名

③あまり変わらない 0 名

④変わらない 0 名

平成 29 年度文化庁委託事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
日本語教育を行う指導者の育成

アンケート結果 かすが・にほんごひろば、福岡市
回収数 28 名

1. 本ワークショップに参加して、地域社会で生活する外国人に対する日本語教育への
理解は深まりましたか。①～④からお選びください。

①深まったと思う	20 名
②まあまあ深まったと思う	7 名
③深まらなかった	0 名
④分からない	1 名

2. 本ワークショップに参加して新たな気づきや、特に興味を持ったことがありますか。

気づきや興味を持ったことがあれば、ご自由にご記入ください。

・学習者のニーズばかりではなく、教える側の意図も考えて次につながることを考えなくてはいけないと考え
させられた

・質問の言葉の選び方が非常に難しい。学習者が自ら言いたいことをどんなヒントを与えて言ってもらうなど
とても勉強になりました。とにかくいろいろ実行したいと思います。有難うございました。

・単に会話をするだけでなく、色付の教材があると勉強する気持ちもあがるのではないかと思いました。がボ
ランティア教室でカラーコピーは金銭的に負担が大きいかな・・・。

・ボランティア教室で交流の場であってもよいということを再認識しました。普段日本語使わないという学習
者と勉強する時、いつも悩んでいました。

・学習者の方とボランティアは対等の関係であるということ。学習者の人が何を必要としているか常に考えて
学習者が自分の言いたいことが表現できるようと思っています。大変勉強になりました。

・私が関わっているボランティア教室では2時間のうち前半の1時間は一斉の授業形式で後半の1時間は少人
数に分かれての対話形式です。学習者さんのレベルにかなりの差がある中での一斉授業での進め方で気をつけ
るべき点は何でしょうか。疑問に思いながら参加しております。

・今、ボランティア教室でやっている教科書を使った授業が場面シラバスを取り入れる事で少しはおもしろく
なるのかと思いました。

・考え方→日本語を教えることの基礎の部分はとても参考になりました。

・ボランティアを始めてから間もないので色々な情報収集できました。ただ具体的にどこを活かそうかとい
うとまだ思い浮かばないところです。(自分の経験が浅いため、ケースに当てはまらないため・・・)

・学習者の自律学習につながるためにワークシートを準備すること

・勉強した知識を生活の中に持っていくために支援してあげること